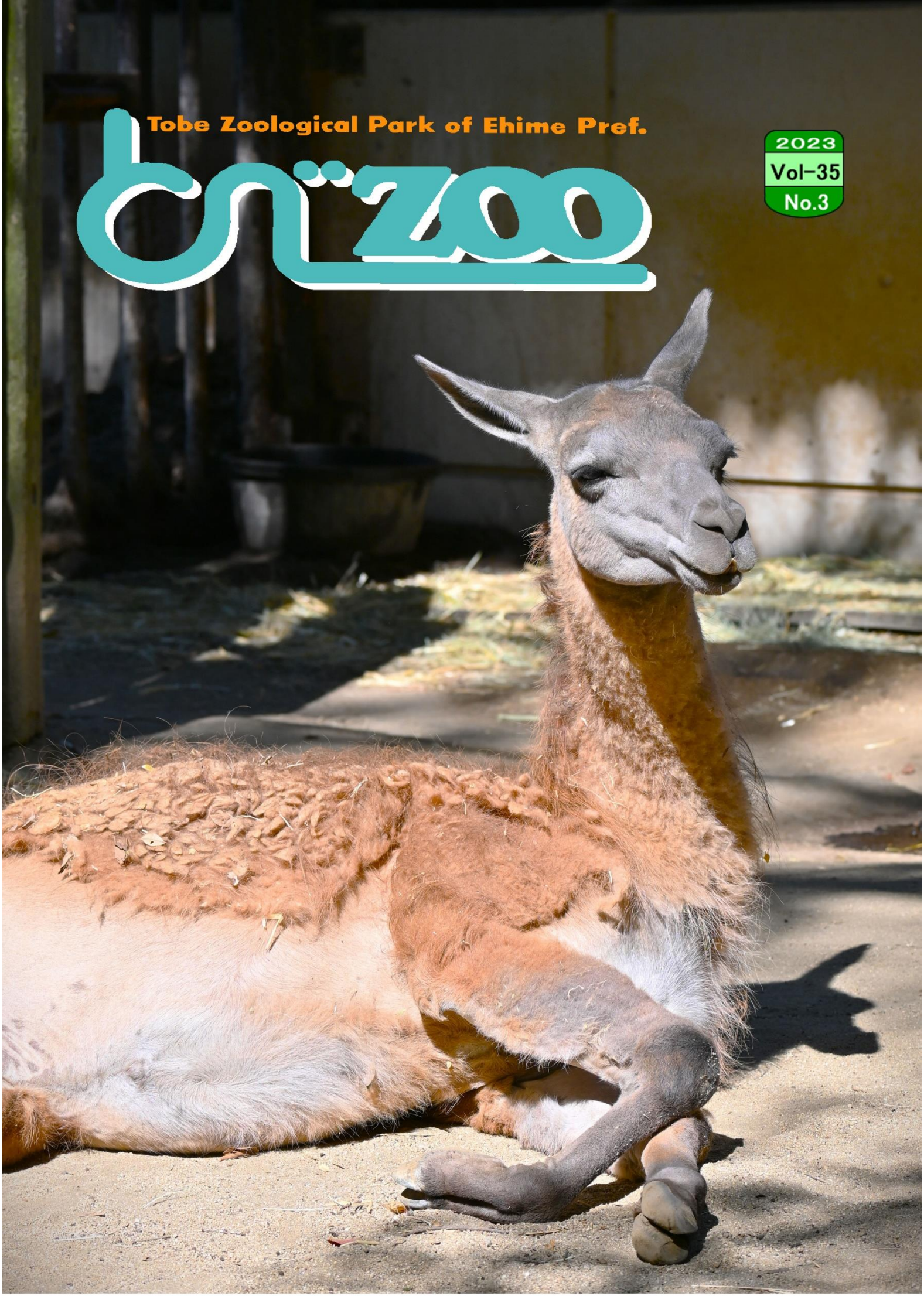
Tobe Zoological Park of Ehime Pref.

tobizoo

2023
Vol-35
No.3



目次

ZOO ダイアリーグラフ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Keeper's Note・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
動物病院から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
落語の中の動物たち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
動物園再発見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
とべとべCOMIC・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
飼育レポート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
職員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
読者投稿用紙 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
どうぶつなぞなぞクイズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

―表紙説明―

■ラマ
学名：*Lama glama*
英名：Lama

南アメリカのアンデス地方に多く生息しており、標高2300m～4000mの高山地帯にある草原などで、家畜として群れで生活しています。現地で暮らす住民たちの大切な家畜で、険しい山道を歩くのに適した体と、耐久力が優れていることから主に荷物の運搬用で飼育されています。コブはないですがラクダの仲間で、機嫌が悪い時には、胃の内容物とツバを混ぜたものを吐きかけてくることがあります。

とべ動物園では、2012年3月26日に、しろとり動物園からオスの「白（はく）」が、2023年3月13日に群馬サファリパークからメスの「タイヤキ」とオスの「アンコ」がやってきました。若くて元気いっぱいな2頭の今後の成長をあたたかく見守ってください。

（写真：横手 凱・文：村上 ひなの）

ZOOダイアリーグラフ

2023.8.1～2023.10.31

～8月19日　入園者数1950万人突破！～

開園35周年を迎えてから４か月で1950万人目の来園者を迎えることができました。これからもみなさまが楽しい時を過ごせるよう職員一同、頑張ります！記念すべき2000万人目はあなたかも！？

～9月9日　高校生飼育体験～

将来、動物関係の仕事を目指している高校生のみなさんにキーパーの仕事を体験していただきました。慣れない作業やガイドに挑戦！今後の進路の参考になると嬉しいです！

～9月18日　敬老の日イベント～

ホッキョクグマのバリーバ（当時３２歳）の長寿をお祝いしました。お祝いにいただいたサケを食べる姿は国内最高齢とは思えないほど豪快でした！これからも健康に過ごしてほしいです。

～10月22日　とべ動物園の日～

当園では１０月下旬の日曜日を毎年とべ動物園の日と定め、様々なイベントを行っています。また、動物慰霊祭も実施され、天寿を全うした動物たちへの感謝の気持ちを来園者の方と共に伝えました。

【毎月のガイド】

- 毎日「ペンギンのお食事タイム」
- 毎土・日曜日・祝日「ヒポヒポランチ」（有料）
- 毎土・日曜日・祝日「ゾウ様のブランチ」（有料）
- 毎日曜日「キリンの瞳に大接近」（有料）
- 毎日曜日「ZOOタイム1130」
- 第３火曜日「園内まったりお散歩」
- 第２土曜日・第４日曜日「ボランティアガイド」

＊有料ガイドのチケット販売は管理事務所で行っています。

＊動物の体調や天候により中止することがあります。詳しくは当園HPをご覧ください。

出産報告

８月　７日　ジャガー(不明１)
８月 26 日　フサオマキザル(不明１)
９月 16 日　アカカンガルー(不明１)
10 月 10 日　モルモット(不明３)
10 月 19 日　モルモット(不明３)

元気に大きく
育ってね♪

フサオマキザルのナスビ(♀)から新たな命が誕生！名前は「もろこし」に決定しました。これからの成長が楽しみです。

搬出報告

10 月　８日　ボールニシキヘビ(不明４)
10 月　９日　ライオン(♂１)

いってらっしゃい！
元気でね！

昨年当園で誕生したライオンのクレイ(♂)が10月９日に札幌市円山動物園にお引越ししました。新天地でも愛されることでしょう！

搬入報告

９月 12 日　ムツオビアルマジロ(♂１♀1)
10 月 22 日　プレーリードッグ(♂1)
10 月 27 日　プレーリードッグ(♀3)

これから
よろしくね！

ムツオビアルマジロのペアが当園にやってきました！今後は繁殖にも期待がもたれます！

死亡報告

８月　７日　ビルマニシキヘビ(♂1)
８月　９日　ジャガー(不明１)
８月 23 日　ボンネットモンキー(♂1)
８月 25 日　コジュケイ(♂1)
９月　１日　ショウガラゴ(♂1)
９月 14 日　ヒツジ(♀1)
９月 22 日　ヨツユビハリネズミ(♂1)

ありがとう、やすらかに…

ヨツユビハリネズミのじゅうべえ(♂)が亡くなりました。臆病な性格でしたが、たまに顔を見せてくれるかわいい一面もありました。

Keeper's Note

☆マントヒヒのイブナ☆

当園にはオス４頭、メス７頭（１頭はケガの治療中のために隣室に分離中）のマントヒヒが暮らしています。その中で今回注目したいのはメスのイブナです。イブナは生まれた時から全盲のマントヒヒでした。

チャメに寄り添うイブナ

イブナは2008年２月３日に母親のチャメの３番目の仔として生まれました。が、生後２か月が経った頃にイブナの様子がおかしいことに気付きました。目は腫れたようになり、体を左右に揺らす動作も確認できました。これまでに生まれた仔には見られなかった行動でした。その様子を心配した当時の担当者が獣医師に報告し、調べたところ全盲であることが分かりました。

１歳の頃のイブナ

これからどうなるのか、不安なことはたくさんありましたが、育児経験が豊富なチャメに任せて、この母仔を見守っていくことにしました。

イブナの成長を語るうえで外すことができないのがオスのボンズの存在です。マントヒヒの群れは１頭のオスを中心に複数のメスとその仔たちという構成です。イブナが２歳の時にある転機が訪れました。優しく面倒見の良いオスのボンズに受け入れられ、２頭はカップルになったのです。マントヒヒのオスは群れで闘争が起こると、まずカップルのメスに覆いかぶさるようにして守るような姿勢を取ります。これで何かあってもボンズがイブナを守ってくれます。また、イブナがなかなか部屋に戻れないような時は、そっと手を添えるようにして部屋まで誘導しようとしていました。ボンズのやさしさを感じる一場面でした。

ところが、10年後の2022年の秋のことです。ボンズは新たなメス（エス）をパートナーとして受け入れたのでした。それ以降、ボンズはエスと大半を過ごすようになりイブナは１頭でいる時間が多くなりました。さらに、その翌年には母親のチャメが亡くなり、イブナにとって大変なことが続きました。

上段左からイブナ・メメ・スアルジュ
下段エス（左）・ボンズ（右）

そんなイブナを支えてくれたのがメメとスアルジュという２頭のメスでした。もともと相性のよい３頭でしたが、最近はこれまで以上にイブナと過ごしている時間が増えたように思います。この写真の光景が、なんとなくイブナを励ましているようにも見えました。

全盲で生まれたイブナも今年で15歳になりました。彼女自身が持つ力強さと、一緒に暮らしている群れのメンバーたちに支えられ成長してきました。また、イブナのことを知り、多くの来園者が訪ねて下さるようになりました。これからも、イブナの応援をよろしくお願いします。

（連（むらじ）　有吾）

TOBE ZOO 動物病院から

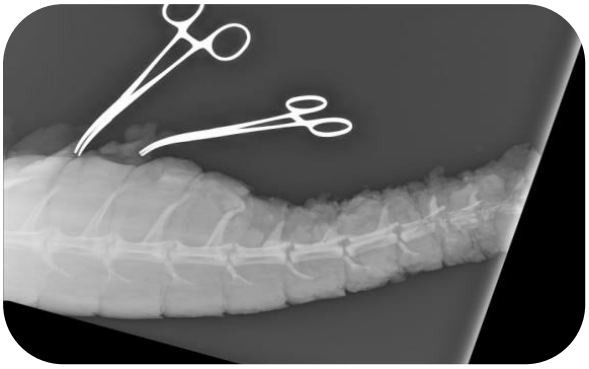
今回はイリエワニの治療についてのお話です。名前のとおり水辺に生息しているのですが、ワニの中でも海水に対する耐性があり、海流に乗って生息域を拡大したといわれています。そんなイリエワニのリエ（♀）は、1994 年にとべ動物園にやってきました。誕生日は不明ですが、30 歳以上ということになります。

2013 年頃から尻尾の先端をお隣のイリエワニのイリちゃんに咬まれたり、自分で咬んだりすることがあり、傷になっていました。傷ができてから 10 年間、これまで傷口を消毒したり、抗菌薬を飲ませたりと色々試みていましたが、徐々に傷が拡大していました。このままでは治る見込みがないということで、尻尾を切除することになりました。

処置当日のリエ

当日は麻酔を注射し、動きがなくなってから処置を開始です。レントゲンで傷のある尻尾の骨と関節を確認して、止血しながら切除し、なんとか皮フを縫合しました。

処置が終了してから麻酔薬の効果を打ち消す薬を注射しましたが、動き出さないままでした。次の日に様子を見に行くと、数メートル前に進んで止まっていました。そのままほとんど動かずに過ごし、10 日目にしてやっと普段通りの動きが見られるようになりました。なぜそんなにかかったのかというと、ワニやヘビといったハ虫類は変温動物なので体温を保つためのエネルギーを必要としません。そのため



尻尾のレントゲン画像

恒温動物（体温を一定に保つことができる動物）である人間と比較すると、代謝するのが遅く、麻酔薬を体内で分解して効き目がなくなるのに時間がかかるのです。

動かない間はプールにも入れないので、１日３回ほど上からジョーロでぬるいお湯をかけて水分補給しました。そのぬるいお湯が顔にかかると、目をパチパチしてくれるのが生存確認になるし、やっているうちに目をパチパチする仕草がなんだかかわいく見えてきました。

現在の様子

残念ながらリエちゃんの尾の傷は、現在も完全にはふさがっていません。水にぬれて端の方から崩れてきてしまうため、プールを休止して陸上生活しています。今後は傷の回復具合を診てプール生活を再開させようと思っています。この号が出る頃にはプールに戻っているかもしれません。

（獣医師　二宮 友里絵）

落語の中の動物たち

さて、このシリーズもいよいよ終盤、残すところあと二回となりました。どの動物を取り上げようかな、と迷っているのですが、ネコ、タヌキ、と続いて次はキツネかネズミか…、意外にもラクダの噺もあるのですが、これは本物のラクダが出てくるわけではなく、傍若無人で周囲の人間にとことん嫌われている男が「らくだ」と呼ばれているという、ラクダにとっては迷惑でしかない噺です（こんな乱暴な人、結構身近にいそうですが、らくだと呼ばないように）。

閑話休題、今回は鳥や獣から離れて「蝦蟇(がま)の油」をご紹介しましょう。

【蝦蟇の油】

「さてお立合い」でおなじみ「蝦蟇の油売り」。その口上はとてもテンポが良く、中でも「四六の蝦蟇を捕まえて鏡の部屋に置くと自分の姿に驚いてたらーりたらりとアブラ汗を流す」という箇所は誰もがどこかで聞いたことがあるのでは？そして、わざと刀で自分の腕に切り傷を作って、「どんな傷でもピタリと治す」と宣伝しながら蝦蟇の油を売ります（そこにはもちろんからくりがあります）。

この蝦蟇の油売りがお酒に酔った勢いで調子に乗って口上を始めると噺は佳境に入ります。酔っているものだから本当に自分の腕に傷をつけてしまい、「いや大丈夫、これを塗ればピタリと治る」と言いながら蝦蟇の油を塗りますが、一向に血は止まりません。もう一回塗りますが、やっぱり全然ダメ、さあ、途方に暮れた男がどうしたか、というのがオチになりますが、続きは寄席でお楽しみください。

陰から動物園を見守っている！？

【ヒキガエル】

ヒッキーの可愛い立ち姿♪

日本に生息するヒキガエルはニホンヒキガエル（関西以南に生息）とアズマヒキガエル（山陰以北に生息）の二亜種と考えられています。日本のカエルの中では最も大きいカエルで体長は 10 ㎝以上にもなります。噺の中では前肢に４本、後肢に６本の指があることから「四六の蝦蟇」と言われますが、実際には後肢の指は５本だそうです。とべ動物園にいるヒキガエルの内、管理事務所にいる「ガマ吉」君は園長代理という肩書を持っている出世頭です(笑)。こども動物センターでは「ヒッキー」君という個体に会うことができます。彼は時々立ち上がることがあるのですが、立ち姿はとても愛嬌があります。でも、背中のイボからは毒性のある粘液を出すので、触った後はしっかり手を洗うことをお勧めします。

こども動物センターには他にも「タゴガエル」、「アカガエル」、「アマガエル」と色素欠乏の青い「アマガエル」がいます。鳴き方もそれぞれ特徴があって、タゴガエルは犬のような「キャンキャン」と聞こえる声、ヒキガエルのオスは、別のオスに間違えて背中に乗られた時に「ヒーヒー」というとても細い声で鳴きます。いかつい姿からは想像できないような可愛い声ですが、実は「俺はメスじゃないぞ～～～、降りろ～～～」という抗議の声です。残念ながら今のところヒキガエルは単独飼育なので、春になってもこの声を聞くことはできないかもしれませんが、ケースの中で立ち上がる姿は運が良ければ見ることができるかも。

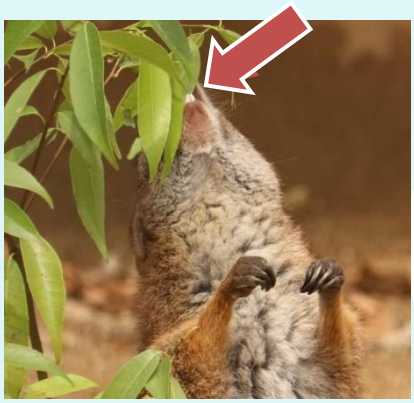
（田村　千明）

動物園再発見

第 39 回　パルマワラビー

パルマワラビーはオーストラリアに生息している小型のワラビーで、体長は約50 ㎝、体重は約4～5 kgです。
野生では日中藪の中にいるため、別名ヤブワラビーと呼ばれています。
カンガルーの仲間は、大型のものを「カンガルー」、中型のものを「ワラルー」、小型のものを「ワラビー」といいます。

分類　有袋目　カンガルー科
英名　Parma Wallaby
学名　*Macropus parma*
保全状況　準絶滅危惧種



双前歯目とも呼ばれているように下の前歯は2本しか生えていません。
また、上の前歯は6本生えており、下の歯と比べて形や長さが異なります。

カンガルーの仲間は汗をかくことができないため、暑いときは前足をなめて濡らし、蒸発するときの気化熱で体を冷やしています。

パルマワラビーは基本的に単独行動ですが、たまに少数の群れで活動することもあります。
とべ動物園では夫婦・親子仲良く暮らしています。

休息のポーズ

たべもの

野生では草や低い木の葉などを食べています。
動物園では青草（イタリアンライグラスなど）や、カンガルー用固形飼料、サツマイモ、キャベツなどを与えています。

とべ動物園のパルマワラビー　～個体紹介～

「しき」（オス）
優しい父親である。子どもの「桜」に優しく、妻の「りつ」を守る。時折お隣に住んでいる「にこ」と柵越しに戦う。

「りつ」（メス）
神経質な性格で、子どもの「桜」にもきびしい時がある。前歯がよく見える。

「桜」（オス）
「しき」と「りつ」の子ども。自立しており、我が道をいく。青草が好き。

「にこ」（オス）
強いオスである。「しき」とよく柵越しに戦っては勝ちほこったような顔をしている。

「さち」（メス）
尻尾の毛先が白くて見分けがつきやすい。キャベツが好き。

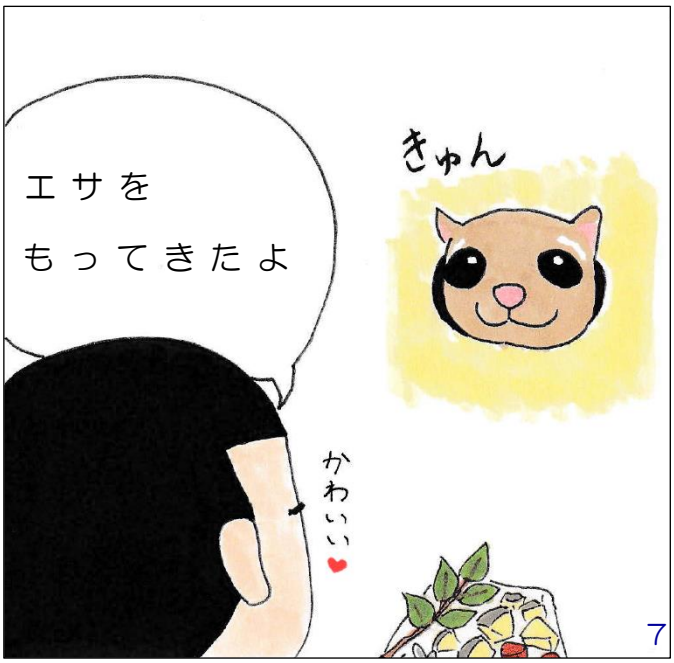
パルマワラビーは、オーストラリアストリートのアカカンガルーの横でご覧いただけます。

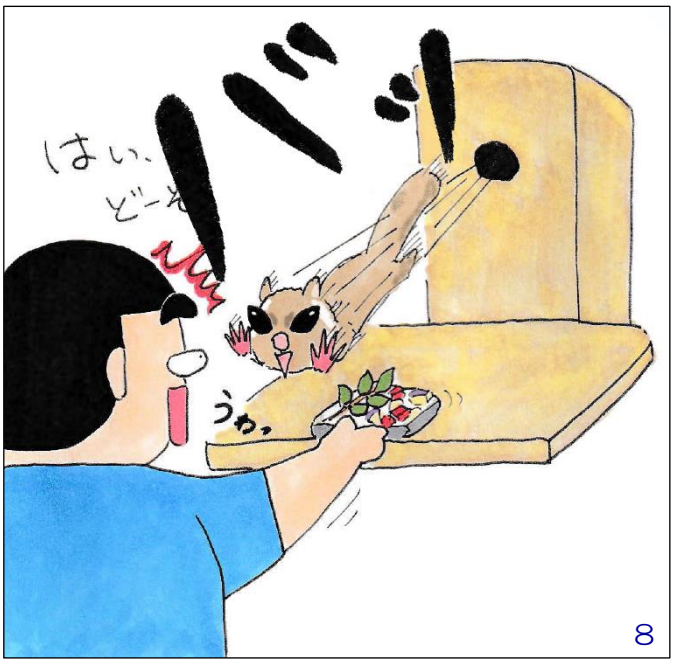
とべとべコミック TOBETOBECOMIC

動物園のなにげない一日

～エサもってきたよ～

ムササビは国内に棲むリス科の中で一番大きな動物です。からだの皮膜を使って木と木の間を滑空して移動します。ムササビとよく似た動物にはモモンガがいます。





ムササビのエサは蒸しイモ・蒸しニンジン・リンゴ・バナナ・ヒマワリの種・樫の枝葉をあたえています。
夜行性のため昼間はなかなか見ることができませんが時々巣箱の外でお昼寝していることもありますよ！

飼育レポート

ジャガーの繁殖と今後の展望について

技師　広田 祐己

2023 年 8 月にジャガーが出産しました。残念ながら、生まれた仔は出産後に死亡してしまいましたが、とべ動物園にとって初めての経験で多くの知見も得られました。今回は当園のジャガーたちとこれまでの繁殖への取り組み、さらに今後の計画についてご紹介します。

☆とべ動物園のジャガーたち

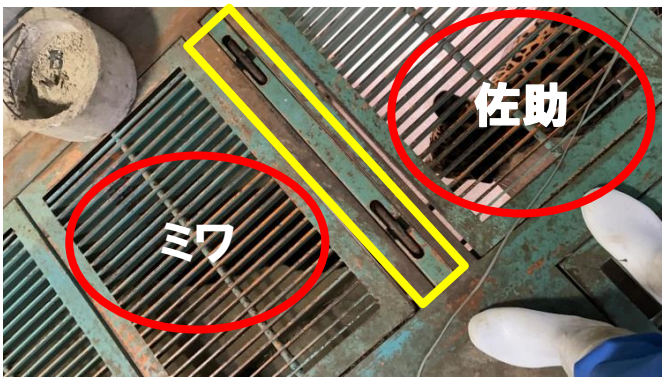
卯月佐助（オス、左）とミワ（メス、右）

当園では、オスで 7 歳の卯月佐助（以下、佐助）とメスで10歳のミワの２頭のジャガーが生活しています。佐助は大阪府の天王寺動物園から、ミワは京都府の京都市動物園からそれぞれ繁殖を担うためにとべ動物園にやってきました。

☆お見合い開始！

ジャガーのようなネコ科の動物は基本的に単独で生活している種が多く、繁殖を目指すうえでは特に注意が必要です。時期を見誤ると個体同士の闘争に繋がり、動物が怪我をしたり、最悪の場合死に至ったりすることも考えられるからです。

当園では同居を行う前に、檻越しに２頭を対面させて「お見合い」を行っています。この時の２頭の反応を観察して、発情の度合いを推定するとともに同居が可能かどうかを判断しています。2022 年 5 月 9 日からお見合いを開始しました。昼間だけでなく、夜間も行えるようにして、時間をかけて２頭がお互いに馴れるようにしました。



お見合いを行っている様子

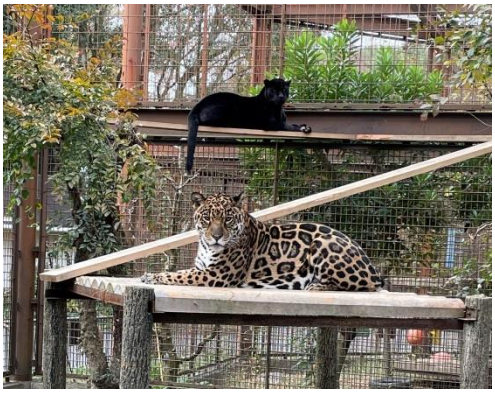
☆室内での同居

室内での同居の様子

５月から７月までのお見合い期間を経て同居を行うことになりましたが、最初の同居は獣舎内での比較的大きな寝室を二室開放して使うようにしました。万が一同居中に闘争などが起きた場合に、部屋を仕切ることで２頭をすぐに分離できるようにするためです。複数の飼育員と獣医師が見守る中、同居を行いましたが、心配していたような事態は起こりませんでした。しかし、２頭とも繁殖経験がなく、お互いの距離感を探り合っているような状態が続きました。特に佐助はグイグイと近づいてくるミワに対して、タジタジになっている様子でした。何度か室内での同居を続けていましたが、２頭の関係に進展が見られなかったため、何か別の方法をとる必要があると考えました。

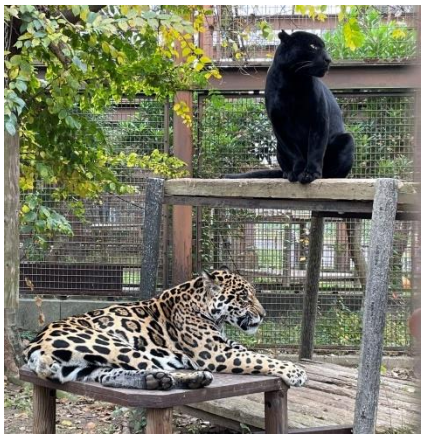
☆パドック（屋外放飼場）での同居

２頭の関係に、少しでも変化を与えられればと思い、2022 年 10 月 11 日からはパドックを使って同居を行ってみることにしました。パドックであれば寝室よりもさらに広い空間を使えるため、適度な距離を取ることによって２頭が落ち着いて過ごし、関係に変化が生まれるかもしれないと考えたからです。しかし、広い空間を使うということは緊急事態が起きた時に簡単に２頭を分離できなくなるという大きなリスクもあります。そこで、２つのパドックと獣舎内の動物用の通路を全て開放して、闘争などが起きた場合に動物自身が逃げ回れるようにしました。また、飼育員と獣医師を３名ずつ配置し、緊急事態が起きてもすぐに対応できる態勢を整えたうえでパドックでの同居を実施しました。



パドックでの同居の様子

幸い、闘争しそうな雰囲気は全く見られず、そればかりか、室内での同居の時にはミワにタジタジな様子だった佐助が、自らミワに近づいていくような様子も観察され、進展があるように思われました。その後もパドックでの同居を重ねていく中で、２頭の距離は徐々に縮まっていきました。



距離が近づいてきた２頭

☆初の交尾

パドックでの同居を始めてからは、仲が悪いわけではないものの交尾までは至らない日が続きました。しかし、2022 年 10 月 15 日についに交尾が確認されました。この日は夜の動物園の開催日ということで、初めて夜間の同居を行いましたが、それが良い結果に結びついたのかもしれません。薄暗かったため、状況を詳しく観察することはできませんでしたが、それからは日中の同居時間にも交尾が観察されるようになりました。

交尾の様子

☆妊娠している？

多くの動物種では、メスは妊娠をすると発情が停止してオスを許容しなくなるため、発情が回帰するかどうかは妊娠を判断する最も分かりやすい指標の１つになります。そこで妊娠をしているかどうかの判定をするために、交尾後の発情の回帰が予想される時期（ミワの発情周期は約 63 日）に同居を再開して交尾するかどうかを観察します。

当園でも同様の試みを何度も繰り返しましたが、なかなか妊娠には至りませんでした。2023 年 4 月 29 日に同居を終了してから約２か月後の６月下旬、ミワの発情の回帰が予想される時期に同居を再度行いましたが、一向に交尾するようすはなく妊娠の可能性が出てきました。しかし、一部の動物では実際には妊娠していなくても妊娠しているような兆候を示す「偽妊娠」と呼ばれる状態があります。まだこの段階では偽妊娠の可能性も考えられましたが、出産に備えて万全の準備を整えるため、いつもはミワの発情に合わせて２週間ほど行っていた同居を念のため１週間ほど早めに切り上げて、様子を見ることにしました。

妊娠しているの？

☆出産に向けての準備

ジャガーの妊娠期間は 100 日前後とされており、同居を終了した 7 月 1 日で最終交尾から 64 日が経過していました。出産するための環境整備として、産箱を何か月も前から寝室に設置し、寝室の格子にもベニヤ板などで目隠しをして少しでもミワが落ち着いて過ごせるようにあらかじめ準備していたので、出産予定日である 8 月 7 日までの残された約 1 か月の間は、栄養面にも気を配りました。また、ミワを刺激しないよう静かに作業をするように留意するとともに、監視カメラを設置して、遠隔で様子を観察できるようにして、出産の記録を取るべく準備しました。このように出産に向けて準備を進めている間にもミワの腹部の膨らみが目立ちはじめ、乳首の周りの脱毛が観察され、いよいよ妊娠が確実なものになってきました。出産予定の 10 日前からは収容時間を早めるようにして 8 月 5 日まで放飼は行いました。

作製した産室
（幅 120×奥行 120×高さ 100 ㎝）

☆仔の誕生と死亡

普段のミワはあまり飼育員を気にせず、攻撃的な素振りも見せない個体でしたが、8 月 6 日にはかなり攻撃的になっていました。産箱にこもることが多くなり、こちらが寝室を遠くから眺めるだけでもそれに気づくと「ウゥ」と少し唸るような声をあげたり、寝室の横を静かに通り過ぎようとしても檻越しに飛び掛かってきたりするような様子も見られました。また、息遣いがかなり荒く、離れていてもハアハアと聞こえるほどでした。このような変化が見られた翌日の 8 月 7 日の午後 6 時頃に出産が確認されました。監視カメラの映像では、生まれた仔は 1 頭で、ミワと同じ黒色（メラニズム）の個体でした。

生まれた仔とミワ

ミワは初産でしたが、仔をよく舐め、２時間ほど経過した頃には授乳姿勢もとっており、よく面倒を見ている様子でした。事態が変わってきたのは出産翌日の夜からです。監視カメラの映像を確認する限り、仔は当初よく動いていましたが、翌日の夜辺りには動きが鈍くなっていました。その後の夜中から朝までの間に死亡したものと思われます。8 月 9 日にミワが産箱を離れたため、内部を確認しましたが、仔の姿はありませんでした。外敵が死体の匂いにつられてやって来ないようにするため、死亡した仔を親が食べて処理をすることは肉食獣ではよくあることで、仔の詳しい死因や死亡した時間を正確に割り出すことはできませんでした。しかし、原因が一つも考えられないわけではありません。

① 暑さによる身体的ストレスが大きかった可能性

野生のジャガーは気温や湿度が高い熱帯雨林などにも住んでいる動物なので、暑さに特別弱いということはありませんが、生まれたばかりで体温を調節する能力が未熟な仔にとって、今年の夏の酷暑は身体的ストレスが大きく、衰弱に繋がった可能性があります。

② 授乳が上手くできていなかった可能性

授乳の態勢をとっていることは監視カメラの映像で確認していましたが、ミワをあまり刺激しないように接触を最小限にしていたこともあり、しっかり母乳が分泌されているかまでは確認できていません。母乳の分泌が十分でなかった場合には、仔が衰弱する要因となった可能性があります。

③ 仔がもともと弱かった可能性

死亡が出産の翌日と、かなり早い時期だったので、もともと何かの疾病を持っていたか、または虚弱体質だったのかもしれません。仔の死亡は非常に残念ですが、今回で得た情報を次の繁殖に繋げていくことこそ重要だと考えています。

☆まとめと今後の展望

今回、当園で初めてとなるジャガーの出産までこぎつけたことには大きく２つの要因が考えられます。

① 高頻度で長期間の見合いを行ったこと

実際に同居を行う前に檻越しに見合いを行っていたことはもちろん、仕切りのある寝室を使用してほとんど１日中見合いができるようにしていました。もともと２頭とも攻撃的な個体ではありませんが、お互い馴れる時間を十分に取ったことはその後の同居時の反応にも繋がったと考えています。

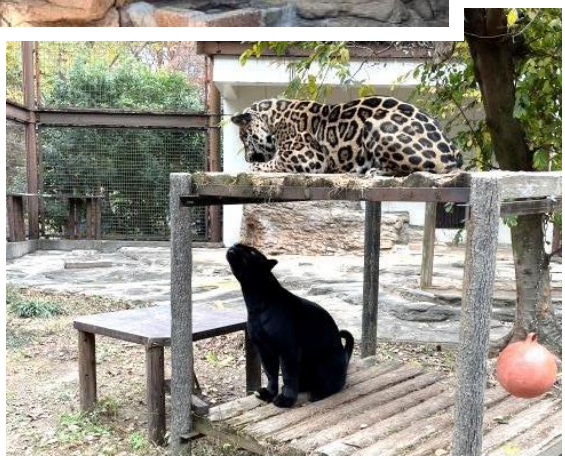
② 室内での同居だけでなく、屋外での同居も行い２頭の関係性に変化が生まれるようにしたこと

室内だけでなく、屋外での同居を行ったことが今回の妊娠・出産に特に関係している要因の一つだと考えています。屋外の広い空間を使用することで、個体同士の心理的な面での変化を生み出し、人間には計りきれない繁殖のタイミングを逃さずに同居を行えたと考えています。

生まれた仔の死亡は非常に残念ですが、今回学んだことを次に繋げることこそが重要です。例えば出産時期が真夏や真冬など、仔にとって負荷の大きい時期にならないように繁殖計画を立て、出産した後に授乳がしっかりされているか確認できるように、普段からトレーニングを行い、仔と母獣の様子次第では人工哺育を行うことも必要になると考えています。

ジャガーは３～４歳程度で性成熟し、飼育下で妊娠が可能とされるメスの年齢は15歳程度までとされています。加えて、仔を育てている間は繁殖が行えないため、繁殖ができる期間は長いようで非常に短いです。日本国内でもジャガーを飼育している動物園は少なくなりつつあり、繁殖は全国的に喫緊の課題となっています。

とべ動物園で暮らしている卯月佐助とミワは個体同士の相性は非常に良く、今まで深刻な闘争に陥ることもなく、同居中も仲良く過ごしています。今回の経験で得た知識を活かし、次世代のジャガーの誕生を皆さんにお見せできるよう、そしてこの先もジャガーという魅力的な動物をご覧いただけるよう、努力と改善を重ねていきますので、２頭への応援をどうぞよろしくお願いいたします！



ぜひ２頭に会いに来てください！

職員紹介

このページでは、とべ動物園で仕事をしている職員を紹介しています。

★氏名を教えてください。

横手 凱(よこて がい)です。

★出身地並びに出身地でのエピソードなど。

広島県呉市出身です。呉市と言っても隅の方にある田舎の島で高校卒業まで住んでいました。その後岡山の大学を卒業し、愛媛にやってきました。

★学生時代の思い出を教えて下さい。

友達と岡山県北部に旅行に行ったことです。当日は雪となってしまったのですが、僕を含め雪国出身の人がいなかったので、皆で大はしゃぎしていました。大学卒業間近に行ったこともあり、とても思い出に残っています。

★趣味を教えて下さい。

趣味はサウナです。疲れた時、リフレッシュしたい時には必ず入りに行くようにしています。まだ数ヶ所しか行っていないので、いつか県内中のサウナに行きたいと思っています。

★就職が決まった時の感想は？

まさか動物園で働くなんて、1年前の自分は考えてもいませんでした。動物園で働ける嬉しさもありましたが、社会人としてやっていけるのかといった不安も多々ありました。

★現在担当のお仕事は？

主に動物たちの様子の写真や動画を撮って、XやFacebook、YouTubeに投稿する仕事をしています。

★動物園の中で好きな動物は何ですか？理由もあれば教えて下さい。

ビントロングの「茶々丸」です。今でも、たまに用もないのに「茶々丸」の前を通り、ついつい写真を撮ったりしています。

★その他とべ動物園でのおすすめポイント(動物)などがあれば教えて下さい。

南米獣舎です。南米獣舎には、ビントロングの「茶々丸」、ミナミコアリクイの「ツム」や「こころ」、フサオマキザルの「もろこし」といった今年生まれた仔や新しく搬入されてきた動物が多くおり、特に赤ちゃんの動物たちは、今しか見られないのでオススメです！

★これまで経験してみて、仕事で嬉しかったことはありますか？

良い写真が撮れた時です。特に長時間粘って狙っていた写真が撮れた時はとても嬉しいです。

★今後やってみたいことはありますか？

今はキレイさ重視の写真を撮っているので、面白さを入れた写真を撮ってみたいと思います。

★座右の銘を教えてください。

「人間万事塞翁が馬」です。幸福も不幸も自分の考え方でどうにでもなるので、いやなことがあっても気にしないようにしています。

★最後に意気込みをひとこと

社会人1年目なので、不安なところ多々ありますがよろしくお願いします！

読者投稿用紙

料金受取人払郵便

松山南局承認

1067

差出有効期間
2025 年 3 月
14 日まで

〒791-1190

伊予郡砥部町上原町 240

愛媛県立とべ動物園

愛媛動物友の会編集部　行

のりづけ②

のりづけ①

のりづけ③

きりとりせん

読者投稿用紙

（イラストや写真も同封できます）

読者の皆様の原稿をドシドシお寄せください。

Vol.35-3 号でよかった記事、
つまらなかった記事は？

今後希望する記事・内容は？

どうぶつなぞなぞクイズの答え
（正解者のお名前は
Vol.35-4 号でご紹介します）

答え○○○○○

（クイズの問題はＰ２３参照）

例会でよかった点、つまらなかった点は？

例会で今後希望する企画は？

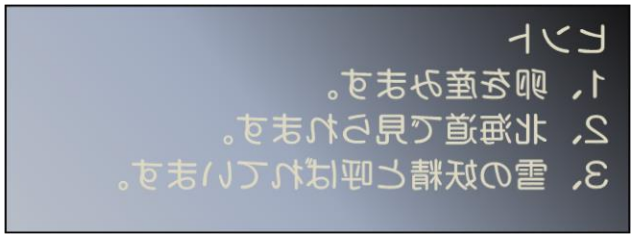
お名前		会員番号	★友の会　家族・個人 ★サポーター　No.＿＿＿＿ 会員の方は会員種別に○をし、会員番号をご記入ください。
住所	〒	電話番号	

どうぶつなぞなぞクイズ

☆問題です！

この動物な～んだ?

答え○○○○○



☆前回の問題

親のスネをかじっている動物がいます。ある動物はかじるどころか食べてしまいます。さて、この動物は何番の動物でしょうか？

① コアリクイ
② アオダイショウ
③ ヤンバルクイナ
④ ニホンイシガメ

スネを食べる→スネを食う→スネ食う→スネークとなり、４つの中でスネークは、アオダイショウなので…

答えは２番でした！

Vol.35-2　クイズ正解者

★会員番号	No.21	音地　秀起さん
★会員番号	No.50	森　幸子さん
★会員番号	No.52	田中　早苗さん
★会員番号	No.137	林　信子さん
★会員番号	No.152	瀬戸　遼人さん
★サポーター		中野　桂子さん
★サポーター		菅原　あいこさん
★サポーター		山崎　亜紀さん
★サポーター		三池　京子さん
★サポーター		橋本　三重子さん
★サポーター		村井　桂子さん

正解の方々にはオリジナルポストカードセットをお送りします。

応　募　要　項

読者投稿用紙のクイズ解答欄に答えを記入して郵送するか、メールでお便り下さい。締め切りは 1 月 20 日までにご応募ください。

開園案内

■開園時間　―　9:00～17:00
入園 16:30 まで
■休 園 日　―　毎週月曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始
(12 月 29 日～翌年 1 月 1 日)
■入 園 料　―　大人(18 歳以上)５００円
高校生（15～17 歳）200 円
小中学生（6～14 歳）100 円
(30 名以上の団体 2 割引)
■ホームページ　―　https://www.tobezoo.com/
■ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　―　tomonokai@tobezoo.com

とべＺＯＯ　Vol-35 No.３号
令和５年発行　定価 200 円（消費税込）
編集・発行人／公益財団法人愛媛県動物園協会
〒791-2191
愛媛県伊予郡砥部町上原町 240
印　　刷／公益財団法人愛媛県動物園協会
編集委員長／宮内 敬介
編集副委員長／佐々木 善基
編 集 委 員／池田 敬明・山本 祥菜・宮越 聡
平澤 萌・吉武 ちとせ・村上 ひなの
森貞 恭治・白潟 綾・横手 凱

ラ　マ

愛媛県立とべ動物園

〒791-2191　愛媛県伊予郡砥部町上原町２４０
TEL089-962-6000

動物取扱業に関する表示
申請者の氏名：公益財団法人　愛媛県動物園協会
事業所の住所：愛媛県伊予郡砥部町上原町２４０
登録番号：動愛第４４１号（展示）、動愛第９９４号（販売）
動愛第９９５号（保管）、動愛第９９６号（貸出し）
登録年月日：平成１９年５月３１日（展示）
平成２９年５月３１日（販売、保管、貸出し）

事業所の名前：愛媛県立とべ動物園
動物取扱業の種別：展示、販売、保管、貸出し
動物取扱責任者の氏名：椎名　修
登録の有効期間の末日：令和９年５月３０日

定価　一〇〇円